

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

| | | 自 己 評 価 | | | 学校関係者評価 | | 次年度の課題 | |
|---|---|--|---|---|---------|---|---|---|
| NO | 項目 | 重点目標 | 具体的方策・指標・基準等 | 達成状況 | 達成度 | 成果○と課題● | | 意見・要望・評価 |
| 1 | 学校経営 | ①コミュニケーションを大切に した学校経営を推進するとともに、 生徒理解を基底に据えた教育活動を展開する。 | ○面接週間を設定し、生徒とのコミュニケーションを図り、生徒理解を深める。(教務) ○面接週間、ホームルーム活動の活用、夏休みの保護者との二者面談・生徒も含めた三者面談、職員間のコミュニケーションを通し、生徒理解と生活実態の把握に努め、充実した学校生活を送れるように計画的に実施する。(1年) ○面接週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、充実した学校生活を送れるよう配慮する。(2年) | ・1・2年は3回、3年は2回の面接を実施した。(教務) ・年3回の面接週間には、学年統一で重点的に話す柱を定め、また個別事案には柔軟に対応して全生徒対象に実施した。また、必要に応じて保護者を変えて三者面談等も実施した。(1年) ・面接週間で3回、その他、必要に応じて面接を行い生徒理解に努めた。(2年) | B | ○面接を通じ、生徒の学習・生活状況などを把握し生徒理解に努め、クラス担任より助言等を行った。(教務) ○面接週間の短縮授業は大変有効であった。(2年) | ・コミュニケーションについて面談が有効と感じている。 ・質の高い教育をさせていただいている。 | |
| | | ②少子化、グローバル化やICT化の進展など社会の変化に伴う学校の体制の整備と対応の万全を図る。 | ○他教科の実践や一人1台端末を活用した授業を参観することで教員のICT活用能力を高める。(教務) ○2年次の研修旅行の行き先が初めて海外(台湾)となるため、必要なサポートをする。(総合企画) ○ICT機器を積極的に授業、総合、行事など、あらゆる教育活動を通じて活用し、また、生徒自身も総合などの時間を通じて、自分で調べた情報などを自分でChromebookに蓄積できるスキルを身につけることで、三年間活用できる情報集積をする。(1年) | ・ICT機器の各授業での積極的活用や各種アンケート集計等での利用を行った。(教務) ・2学年の台湾研修旅行に際し、台湾留学サポートセンター所長と2学年主任・教頭との顔合わせをセッティングした。(総合企画) ・総合的な探究の時間はもちろんのこと、学年での調査や各教科の授業などでも積極的に使用し、情報収集能力を高めた。(1年) | B | ○ICT機器を先生方が積極的に活用する場面が増えており、次年度もさらなる取り組みが期待される。(教務) ○研修旅行は大きなトラブルなく成功裏に終わった。(総合企画) | ・ICT機器のさらなる活用を進める。(教務) | |
| | | ③「校是」、「教育目標」及び「スクール・ポリシー」に基づく教育を着実に実現するとともに、PTAや後援会、同窓会等、外部団体との連携を図りながら学校の活性化を図る。 | ○スクール・ポリシーにも組み込まれている9つの「南高力」について検証し、学校教育における活動と評価につながるよう促す。(総合企画) ○保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的参加を促すなど、保護者との連携を推進する。(総務) ○同窓会事務局との情報共有に努める。(総務) ○PTA等にも、「校是」「教育目標」「スクール・ポリシー」を意識した発信をしていき、それを理解した上で連携を図り、生徒たちに重層的に支援・指導する体制を作る。(1年) ○学年PTA・学級懇談会・保護者対象の講演会を開催し、連携を強化する。(2年) | ・9つの「南高力」について段階を踏んで検証を進めることができている。また、教務課と連携して各教科のシラバスに評価の3観点と「南高力」との相関を明記し、9つの「南高力」(スクールポリシー)と評価の一体化が進むようにした。(総合企画) ・PTA広報誌「南高だより」は、コロナ前のように編集会議も行われ予定通り年2回発行できた。PTA行事も予定通り行われ、総会の出席率も6割を超え保護者との連携を図ることができた。(総務) ・積極的に学年通信を作成・配布し、進路にかかわる情報のほか、生徒たちの学校生活の様子などを発信することによって、保護者の理解・協力を得ることができた。(1年) ・7月と12月に保護者対象の進路講演会を行い、進路に関する情報や保護者としての心構えを伝える場を設けた。(2年) | B | ●検証している9つの「南高力」について、内容の共有と文言の整理をさらに進めていく必要がある。また、「南高力」を活用した評価のルーブリックの使用がさらに進んでいくようにする。(総合企画) ●PTA活動の機会が減少していたり働き方改革もあり、今後のPTA活動の在り方について検討していく必要がある。(総務) ○進路希望調査・いじめアンケートの保護者記述については、一括集計し、学年で共有し、保護者の意向を把握した上でクラス・学年運営に反映させた。(1年) ●クラス懇談会やPTA役員会の実施(2年) | ・PTA総会は休日開催のようだが、来年度から平日に開催する中学校もある。生徒の多様な活動、家庭優先、働き方改革が理由。そのような小中学校は増えている。 ・南高の探究も充実していることが分かった。是非力をいれたい。 | ・9つの「南高力」の文言を整理した5つの「南高力」の運用開始に向けて他分掌と協力して進めていく。また、「南高力」の共有と活用を進めていく。(総合企画) |
| ④生徒の「ウェルビーイング」が高まる「学び」や「指導」のあり方を研究していくとともに、教師の「ウェルビーイング」に繋がる「働き方改革」の取組みを推進していく。 | ○校務支援システムを活用し、教員の校務軽減に努める。(教務) ○今・中期・長期のウェルビーイングについて生徒・教員ともに考え、共有し、豊かな成長を期待できる環境をお互いに作る。(1年) | ・教務を活用し、出欠・成績処理、諸証明書を作成を行った。(教務) ・時間割変更ソフトの導入した。(教務) ・HRや学年集会で、「集団の質」や「利他」について話し、学年行事を生徒に企画・運営させるなどし、年間を通してウェルビーイングを意識させた。(1年) | B | ●入力漏れやミス無くすようなデータ照合。(教務) ○時間割変更作業の時間短縮とミスの減少につなげることができた。(教務) ●学年団の人手不足により、学年団の負担を軽減させることはなかなかうまくいかなかった。(1年) | | | | |
| 2 | 学習指導 | ⑤主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、学力の向上を図る。 | ○授業変更により自習を減らし、授業で学ぶ環境をつくる。(教務) ○行事予定を提示し、計画的に学習に取り組めるようにする。(教務) ○教科ごとに校内研究授業を実施し、生徒の学習意欲向上や主体的に学習に取り組む姿勢の醸成について研究する。(教務) ○授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させ、平日は一日150分、休日は一日240分以上の家庭学習時間の習慣化を図る。(1年) ○学習時間調査や成績分析を行い、教職員間の共有、連携をとった上で二者面談での生活実態把握を実施する。(1年) ○授業第一主義及びタイムマネジメントの徹底のもと、1人1台端末を活用しながら、予習、復習、課題に取り組ませ、平日は一日150分、休日は270分の家庭学習時間を習慣化するよう指導する。(2年) ○学習時間調査や成績分析、面談を行うとともに、教科担任や部活動顧問、家庭とも連携を密にし、一人ひとりの生活実態を把握しながら、効果的な学習指導を行う。(2年) ○授業第一主義のもと、タイムマネジメントを徹底させながら、予習、復習、課題に取り組ませ、部活動引退後は、平日270分、休日8時間以上の家庭学習時間を習慣化させる。(3年) ○主体的、対話的で深い学びとなる理数探究(課題研究)を通して思考力・判断力を、また発表を通して表現力を養成する。(理数科) | ・授業第一主義のもと、授業変更を適宜行い、自習を極力減らした授業実施につなげた。(教務) ・学習時間調査を通して生徒の生活を把握し、二者面談で生活実態や環境を理解した上で、生徒に対して声かけや指導を行うことができた。(1年) ・1年次と比較すると、各教科の学習時間は増加しているが学年の目標である平日150分、休日270分には届いていない。学習時間の絶対量自体は2年になっても十分とは言えない。主要三教科のバランスがよくない。学習時間確保については、学年として進路通信や学年集会等で繰り返し周知しているがまだ結果に反映されていない。(2年) ・9月以降から学習する雰囲気が出てきて、図書館や第2多目で学習する生徒が見られた。(3年) ・最低限の予習や課題への取り組みは見られた。授業の中で考えようとする姿勢はよくできている。(理数科) | B | ○バランスを配慮した授業変更を行うことができた。(教務) ●先生方一人一人の授業改善や、教科内や教科を超えた学習の情報交換につながるよう教科内での話し合い・研究授業・授業見学週間・授業評価アンケートなどを積極的に活用し、教科指導のレベルアップにつなげていきたい。(教務) ○学校全体で定めた学習時間調査のほかの、平時的な生活リズムを知るために、独自で調査を行い、学年で共有し、その後の指導に活かした。(1年) ●今後の課題としては、生徒個々人の学習時間推移を把握し、さらに学習時間とスマホ使用時間が成績にどのような影響を及ぼしているかを定量的に分析することが挙げられる。また家庭におけるスマホの使い方について保護者との連携を図る。(2年) ○部活動の完全燃焼と南高祭の成功で、受験勉強への切り替えは全体としては良好であった。(3年) ○授業の中で考える姿勢が覗える。(理数科) ●予習、復習の時間を確保させ基礎の定着を徹底する。(理数科) | ・前回会議資料の大学情報を子供に見せてからスイッチがはいり頑張った。先生方にご指導いただいたおかげで、実力を発揮できたと思う。ありがとうございます。 | ・教科指導のさらなるレベルアップを図る。(教務) |
| | | ⑥デジタル時代の進展を踏まえ、ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒の可能性を引き出す指導を研究する。 | ○課題探究の実践やICT機器を活用し、新たに求められる資質・能力の育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、授業改善を行う。(教務) ○生徒1人1台端末の個別最適な学び・協働的な学びに関わる利活用をさらに推進していく。(総合企画) ○総合的な探究の時間のみならず、あらゆる授業において協働的な学びを大切にし、実際とオンライン両方での協働的な学びを経験させ、柔軟に学びの場を作れるスキルを身につけさせる。(1年) ○デジタル人材育成のため、DX加速化推進事業を活用して創造的な学びや探究活動の教育環境整備を進める。(理数科) | ・各教科の特性に応じ、様々な場面でICT機器を活用した授業が行われた。(教務) ・年々教員のICT利活用が進んでおり、生徒1人1台端末を活用した個別指導や協働的な学びが進んでいる。(総合企画) ・総合的な探究の時間はもちろんのこと、学年での調査や各教科の授業などでも積極的に使用し、情報収集能力を高めた。(1年) ・授業でChromebookを使用し調べ学習やスライド発表などICTを活用した。(理数科) ・DXハイスクール推進事業を活用し、デジタルサイエンスワークショップ、DXワークショップを実施した。(理数科) | B | ●次年度もさらなる取り組みが期待される。(教務) ○生徒1人1台端末を活用した不登校生徒のオンライン授業参加が進んでいる。(総合企画) ●学習指導にどのように生成AIを活用できるかや学習アプリの活用については今後模索していくべき課題である。(総合企画) ○研究過程、成果発表を通し、思考力・判断力・表現力を高めることができた。研究発表を重ねることにスライドの工夫や質疑応答の活発化を感じることができた。(理数科) ○デジタルサイエンスに対する興味関心を高められた。またVRゴーグルやデジタル顕微鏡などに触れ、その活用の基礎を学んだ。(理数科) | ・不登校生徒のオンライン授業について、小中学校は居場所作りを進めているが、高校はそこまではいかない。小中学校も学校を欠席したときは、家庭で映像を見ることができ環境が増えている。是非、続けてほしい。 | ・学習指導にどのように生成AIを活用できるかや学習アプリの活用について他分掌と協力して進めていく。(総合企画) |

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

| | | 自 己 評 価 | | | 学校関係者評価 | | 次年度の課題 | |
|----|------|--|--|---|---------|---|--|--|
| NO | 項目 | 重点目標 | 具体的方策・指標・基準等 | 達成状況 | 達成度 | 成果○と課題● | 意見・要望・評価 | |
| 2 | 学習指導 | ⑦文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的、対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を養成し、発表の機会、場の設定などに配慮する。 | ○研究授業や授業見学週間などを通じ、授業改善と指導法の研究を進めるとともに、主体的・対話的で深い学びとなる指導の在り方を研究していく。（教務） ○校内読書感想文コンクールや総合探究の時間にビブリオバトルを行い、読書量の増加と表現力の向上を図る。（教務） ○総合的な探究の時間の運営をサポートしながらセミナーや発表活動の機会を設定する。収集した情報を比較検討しながら読み解く力を養成し、探究的な学びに対する主体的・対話的な学びを継続的に促しながら「南高力」を育成する。（総合企画） ○大学入学共通テストを見据えて、文章や情報を正確に読み解く力を高め、国語・数学の記述力及び英語の四技能を意識した授業を実践する。（1年） ○「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性、多様性、協働性」の観点を意識した授業を実践し、大学入試で求められる知識・技能の変化を意識し、継続的に新しい学力を身に付けさせる。（2年） ○大学入学共通テストを見据えて文章や情報を正確に読み解く力を養い、主体的・自律的な学習に励む態度を育成する。（3年） ○予習、復習を徹底して授業に臨ませるとともに、「授業第一主義」の趣旨を十分理解させ、授業の中で考え学ぶ姿勢を維持させる。（理数科） | ・他教科も含めて見学できるよう研究授業や授業見学週間を実施した。（教務） ・図書館だより等の広報活動・学級文庫の設置や読書感想文コンクール、ビブリオバトルを行い、読書への動機づけを行った。（教務） ・総合的な探究の時間における本校生徒の主体的な学びは年々良くなってきていると内外の方々から評価されている。「南高力」を用いた自己評価ルーブリックの結果から、生徒たち自身も探究活動を通して9つの「南高力」の伸びを感じているということが分かった。（総合企画） ・定期テストはもろろんのこと、模擬試験に向けても学年会で相談の上、準備をし、実施した。振り返りも徹底させ、生徒たちの模擬試験にむけた姿勢を醸成できたと考えている。（1年） ・各教科担当者の努力により、ICTを活用したりグループ学習をしたりして主体的な学びを実践している。（2年） ・与えられる課題が多いためか、受け身の学習をしている生徒、自己中心的な学習になりがちの生徒が散見された。（3年） ・2年生理数探究中間発表会や校内最終発表会を実施し、レポートのまとめやスライド発表を行った。また山形県探究型学習課題研究発表会に参加し、他校生徒や専門の先生方との交流ができた。（理数科） | B | ●研究授業や授業見学を積極的に活用できる体制をとっていく。（教務） ○校外コンクールでの県以上の入賞はなかったが、総合的な探究の時間や学年での読書活動のご協力により、貸出冊数が大幅に増えた。（教務） ○探究活動の成果として校外コンテストへの参加数が増えた。中でもベネッセ主催の探究コンテストに参加した全国中高生の中でファイナリスト10組に本校生徒2人の探究活動が選ばれたことは、校内での探究活動のレベルが上がってきていることを示す一例である。（総合企画） ●今後もより良い探究活動へ伴走のあり方を教員側も探究する必要がある。（総合企画） ○科学レポートのまとめ方を身につけたり、発表の工夫や対話的で研究内容を深化させる質疑応答ができた。（理数科） ○実験を通して仲間と議論し合い、協力して研究成果をまとめることができた。（理数科） ●説明不足や図表の工夫など、読んで理解してもらえらるレポートにするには改善の余地はある。（理数科） | | |
| | | ⑧新教育課程における「総合的な探究の時間」の課題探究実践、観点別評価についての研究をさらに深める。また、個々の教師が身に付けた知識・技能に加え、求められる知識・技能が変わっていくことを意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続けていく姿勢を保つ。 | ○各教科で前年度の評価結果を検証し、観点別評価が、生徒の学習改善及び教師の指導改善につながるようにしていく。（教務） ○「総合的な探究の時間」の運営やサポートのあり方について教員が学ぶ機会についての情報を提供しつつ、年度末に校内研修会を設ける。（総合企画） ○1年次の「総合的な探究の時間」に、次年度に向けた理数探究準備講座を実施し、探究活動の基本を身に付けさせる。（理数科） ○筑波研究学園都市研修を1年生対象に実施し、先端科学技術に触れさせる。（理数科） | ・各教科でこれまで実施した観点別評価について情報を共有し、より良い評価になるように努めた。（教務） ・総合的な探究の時間を含む、データサイエンスを活かした学びのあり方について年度末職員研修会(2/18)を設けることができた。（総合企画） ・理数科1年生は総合的な探究の時間を利用し、理数探究準備講座を20回実施した。（理数科） | B | ●生徒の成長につながるよう今後も観点別評価の理解と実施の工夫を継続していく。（教務） ●研修会で学んだ内容を今後の指導に活かす手立てについても話題にしていく必要がある。（総合企画） ○課題研究の進め方や実験の基礎を学んだ。（理数科） ○先端科学技術に触れさせ興味関心を高めることができた。（理数科） ●研究テーマ設定にあたり、解決すべき課題を見出す力が不十分である。（理数科） ●研究活動の流れや実験計画、リソースの活用など丁寧に指導していく必要がある。（理数科） | | ・研修会で学んだAIやデータサイエンスを指導に活かす手立てについて話題にしていく。（総合企画） ・理数探究の研究内容を充実させていくサポートを検討し実践していく。またDXワークショップや授業でもデータサイエンスや生成AIの活用を体験させていく。（理数科） |
| 3 | 進路指導 | ⑨確かな学力の育成を基盤としながら、情報化・グローバル化など変化の激しい時代に求められる資質・能力を育成する。 | ○変化の激しい時代における社会課題を総合的な探究の時間を通して考えさせながら、生徒1人1人端末末によるGoogle Workspace活用のスキルを高めつつ、グローバル化についてより深い思考を促す。（総合企画） ○外部模試による学習状況の分析とともに、個人の学力と学習の実態把握・指導を実施し、全国での学年平均偏差値60以上、且つ65以上の生徒50名以上を目指す。（1年） ○総合的な探究の時間並びに研修旅行を活用し、次次のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。（1年、2年） ○山形大学理学部との連携事業として、実験講座を1・2年生対象に実施する。また、1、2年生を対象に、研究室訪問、施設見学会を実施する。（理数科） | ・総合的な探究の時間において、情報化やグローバル化に関するセミナーを実施している。（総合企画） ・生徒に対しては模擬試験前に目標設定・志望校設定、終了後は各教科、振り返りを実施した。学年団も講師を招いて分析するなどした。長い目で粘り強く指導を継続させていきたい。（1年） ・山形南初の海外研修旅行として台湾に赴き、台湾の人々との交流を通してコミュニケーション能力を高めるとともに、他国の文化、歴史に触れグローバルな視点で物事を考える機会となった。（2年） ・2年生対象に「県工業技術センター研修」、「山形大学理学部訪問」を実施した。（理数科） | B | ○総合的な探究の時間において、台湾留学サポートセンターによるグローバルセミナーや鶴岡のソーニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)による半導体産業セミナーを1年生に対して実施した。（総合企画） ○台湾の文化に触れるだけでなく自国を見つめるよい機会となった。（2年） ○実物を見、生で説明を聞くことは生徒に大きな感動を与える。これがきっかけで自然科学への関心が一層高まった生徒が多い。（理数科） | ・初の海外研修旅行、親と一緒にでなく子供たちが主体で経験するのはとても大事なので、是非来年も検討いただければと思う。 | |
| | | ⑩広い視野と高い志を育成し、国公立大学や難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒一人一人の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。 | ○個々の進路目標に沿った指導を行い、国公立大合格150名以上、難関大学・医学部医学科合格20名以上を目指す。（進路） ○大学入学共通テストにおいては、1000点満点中630点以上の平均点獲得を目指す。（進路） ○「1年職業講話」「各学年進路講演会」などを実施し、意識の高揚に努める。（進路） ○希望者に対し、「医師体験」「看護師体験」「理学療法士・作業療法士体験」などに積極的に参加する。（進路） ○総合的な探究の時間において「社会と自分との関り」について考えを深めさせることで、将来の進路やキャリアについて自分の興味関心や特性を活かしながらより幅広く考えられるようにする。（総合企画） ○二者面談を通じて、生徒一人ひとりの学力、進路目標や適性を踏まえた上で、適切な文系・理系のコース選択の指導を行う。（1年） ○新課程による大学入試改革に対応できるようにするために、総合的な探究の時間等を活用し、生徒の進路意識を高めさせる。（3年） ○外部模試により学習状況を分析し生徒の志望や学力を確認し、個別面談や三者面談を実施して、志望校合格へ向けた学習計画をしっかりと立てさせる。（3年） ○大学や研究機関の研究内容を積極的に紹介したり、研究機見学などを実施することで、高い志をもって社会の課題や自然科学の探究に挑む態度を養成する。（理数科） | ・大学入学共通テスト等への研究会等へ参加し情報の収集に努めた。また東北・山形両大学との「県大学入試研究会」に積極的に参加し、情報を共有した。（進路） ・大学入学共通テストにおいて、平均652.5点に達し、目標値を大幅に超えた。（進路） ・県教委主催「医進塾」に2年10名、1年9名、「小学校教員セミナー」に2年10名、1年4名、「難関大セミナー」に2年1名、1年15名が、県立保健医療大学主催授業体験に3年4名が参加した。（進路） ・総合的な探究の時間におけるセミナーや探究活動を通して、社会と自分との関わりについて考えを深める時間や自分の将来についても興味関心や特性を活かしながら幅広く考える機会を十分確保している。（総合企画） ・文理選択という大きな決断をする一年となったが、全体での説明、朝学習を利用しての文理の分野にかかわる文章を読ませ、二者面談、7月の進路講演会を実施するなど、きめ細かく対応し、スムーズに決定するに至った。（1年） ・総合的な探究の時間を活用し、将来に活かせる情報リテラシーを身につけさせることができた。（3年） ・模試ごとに目標を設定させてから試験に取り組ませた。（3年） ・山形大学理学部での高大連携実験講座を1年生は3回(物理・化学・生物分野)、2年生は2回(化学・物理/生物)実施した。（理数科） | B | ○令和7年度大学入学共通テストへの「情報」の3年次での対策が確立し、次年度以降も対応できる見通しが立った。（進路） ●来年度の共通テスト難化予想に対する対策の準備が必要である。（進路） ●地元大学の魅力について、引き続き発信していく必要がある。（進路） ●今後も総合的な探究の時間と大学進学、キャリア教育とのより良い連携を考えていく必要がある。（総合企画） ●模試後の復習の徹底。復習の仕方を例示したり、期限を示したりして復習を徹底させる対策。（3年） ○実験することの意義や条件設定の重要性など課題研究につながるポイントを学ばせることができた。（理数科） | ・小学校教員セミナー等、教員希望者が少ない。キャリア教育の一環で中高で連携できないのか。中学校に来れば案内する。是非送り出していだければと思う。 ・保護者が分からない大学もたくさんある。面談の機会を通じて、子供たちに系列の大学等情報もあれば、早く目標に向かっていけると思う。 | ・多様化する入試制度の情報収集と研究を進め、個々の生徒に合った入試制度の利用について模索する。（進路） ・総合的な探究の時間と大学進学、キャリア教育とのより良い連携を考えていく。（総合企画） |
| | | ⑪高大接続改革に対応するため、県内大学等との連携充実を図るとともに、その情報を学校全体で共有しながら生徒個々の進路実現に向けた指導を行う。 | ○高大接続改革を見据え、GoogleWorkspeceを活用し、生徒のキャリア育成に資するとともに、情報化・グローバル化など変化の激しい時代対応すべく最新の改革動向を踏まえ適切に対応する。（1年） ○高大接続改革を踏まえ、Google for Education等を活用し、生徒自身の主体的な学びや人間的な成長を促し、大学で学ぶ力や社会で生きる力を伸ばす。（2年） ○平常講習等や蔵王学習会宿舎を実施し、志望校合格に向けた盤石な学力を確立し、最後まで粘り強く努力する態度を育成する。また、国公立大学150名以上、難関大学20名以上を目指して、生徒一人一人の自己実現に向けた適切な進路指導を行う。（3年） | ・大学の情報や、卒業生の大学生活の様子などを学年通信で伝え、視野を広げながらGoogleWorkspaceを利用した文理選択調査や進路調査を行った。（1年） ・総合的な探究の時間や模試の目標設定、進路研究などで活用した。（2年） ・蔵王学習会宿舎には70名が参加し集中して学習に取り組み、受験勉強への良い切り替えとなった。（3年） | B | ●ICTを使うことが目的ではなく、使うメリット・デメリットや目的を明確化し活用する必要がある。（2年） ●難関大添削への希望者は多かったものの、次第に提出が減ってしまった。（3年） ○担任の声がけにより、平常講習・夏期講習とも比較的欠席が少なく、集団として受験勉強に向かうことができた。（3年） ●残念ながら冬期講習では、インフルエンザの流行もあり感染予防や自分勝手な判断により欠席が増えてしまった。（3年） | | ・地元大学に限らず、各大学の魅力について、様々な場や手段を活用して発信していく。（進路） |

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

| | | 自 己 評 価 | | | 学校関係者評価 | | 次年度の課題 |
|----|------|--|--|---|---------|--|---|
| NO | 項目 | 重点目標 | 具体的方策・指標・基準等 | 達成状況 | 達成度 | 成果○と課題● | |
| 4 | 生徒指導 | ⑩自治的な生徒会活動と活発な部活動を奨励しながら「共通性」を涵養するとともに、「多様性」の理解も促しながら自他を尊重しあう集団づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○本校部活動方針に基づき、各種大会での上位入賞・全国大会出場（30名以上）を目指す。（生徒） ○働き方改革プランを踏まえ、合理的、効果的、効率的な活動を追求し、学習との調和に努める。（生徒） ○自主的、積極的な生徒会活動を実践させ、互いに尊重、協力する姿勢と自他の命を大切にすることを育てる。（生徒） ○部活動や生徒会活動、更にはボランティア活動などに積極的に参加させ、自主自律の精神を涵養する。（1年） ○部活動や生徒会活動において中核となる自覚を促し、自主自律の精神を持って活動できるようにする。（2年） ○最高学年として部活動や生徒会活動に積極的に取り組ませることで、情熱や粘り強さを涵養し、多様性の理解を促しながら自他を尊重し合う集団作りを行う。（3年） ○「我等の心得」に則り、自主自律の精神を養い、南高生としての自覚と誇りを持たせ、社会生活に資する人材であることを自覚させる。（3年） | <ul style="list-style-type: none"> ・インターハイは、団スポで硬式テニス出場、個人種目も含めてのべ11名、JOC全国にレスリング部が9名、水泳部が1名、全国高校選手権レスリング部は5名、団スポに水泳1名、全国選抜(3月予定)にボクシング1名、レスリング3名、ビーチバレーやクライミングで3名など合計34名が全国出場。全国文芸コンクールで優秀賞(部誌部門)受賞。日中韓高校写真コンテストで最優秀賞受賞。全国高総文祭には、文芸・写真・囲碁が参加。全国囲碁選手権と合わせて8名が出演。写真部は優秀賞受賞。(生徒) ・学校祭では3000人を超える一般招待者を迎え、盛大に行うことができた。体育祭は、熱中症対策をしながら安全に開催できた。各種生徒会行事は、自主的な活動が行えた。(生徒) ・学年生徒会を組織し、学年での課題や目標を生徒自身に考えさせたり、学年集会で、生徒が話をする機会を増やすなどして、自主的・自立的に動く環境を整えることに努めた。(1年) ・生徒会活動においては新執行部を立ち上げ、『創覇』をスローガンに決めて積極的に活動している。(2年) ・部活動については、積極的に取り組んでいる生徒が多く、東北大会等に多数出場し活躍した。また全国大会出場予定の生徒もいる。(2年) ・各部のご指導により東北・全国大会へ出場することができた。価値ある経験をさせていただいた。(3年) ・全体としては、生徒会執行部を中心に最高学年として1、2年生の手本になる行動をするように努めたが、自分勝手な判断をし、行動する生徒が一部いた。(3年) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策や熱中症対策を行いながら南高祭、クラスマッチなどの企画・運営を行い、チーム意識を向上させ「誇り」を高め、自主的、積極的な生徒会活動により責任と協調性が身についた。(生徒) ○生徒会、各種委員会で、生徒会報「コバルト」を通じて広報しながら自主自立の活動することができた。(生徒) ○部活動において、文武両道で頑張る生徒達と、熱心な顧問の先生方のご指導の下、すばらしい活躍であった。(生徒) ●本校の部活動方針のもと、熱心な各部顧問の指導を、より合理的、かつ効果的に取り組んでいく必要がある。(生徒) ●地域でのボランティア活動を行っている生徒に対しての指導や広報活動を充実していく。(生徒) ○運動部の加入率76パーセントと高く、部活動との両立に悩む姿があったが、担任をはじめとして励まし、支えるなどして部活動に意欲的に取り組んでいる。ボランティア活動に活動の場を広げる土壌作りとなった。(1年) ○運動部・文化部ともに向上心をもって部活動に取り組んだ。全国大会等での活躍は少なかったものの硬式テニス部の県大会団体初優勝など、新たな実績を残すことができた。(3年) ●自主自律と自分勝手(自己中)を履き違えている生徒の指導(手を掛けすぎず、ルール(マナー)を守らせる指導)(3年) | |
| | | ⑪学校全体でいじめ防止に取り組むとともに、読書やボランティア活動を奨励し、道徳心や公共心を醸成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○図書委員研修や委員による広報活動を行い、図書館利用の促進を図り、読書活動を促し公共心を育成する。(教務) ○「いじめ・非行をなくそう」県民運動を踏まえ、生徒会によるスローガン等を作成しながら、生徒の自主的な企画及び運営による活動を促進する。(生徒) ○日頃からいじめを訴えやすい学級経営や信頼関係の構築に努め、教師間での情報共有、組織的な対応を行う。また、生徒及び保護者に対していじめ防止対策の周知を図る。(生徒) ○生徒会や部活動、クラス単位、有志団体でのボランティアに取り組み、地域や社会の中で交流する場を積極的に設け、奉仕の精神や道徳心を育む。(生徒) ○「我等の心得」に則り、自ら考え、南高生としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動がとれるように指導する。(1年) ○「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ちながら、多様性を理解し自他を認め合う集団を目指し、1年生の模範となるよう努める。(2年) | <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員による広報活動や学級文庫の設置を行い、読書への動機付けを行った。(教務) ・地元町内会と連携を図り、学校周辺の除雪に、クラス単位取り組みで行った。(生徒) ・地域でのボランティア活動を行う生徒が、増えてきた。(生徒) ・「いじめ・非行をなくそう」スローガンを作成し、本校いじめ防止基本方針とともに生徒へ周知しながら未然防止を図ることができた。(生徒) ・南高に誇りを持ち、自覚を醸成し、それを行動として示すトレーニングの1年となった。先輩の姿を通じ、本校の生徒としての自覚の芽生えが見られた。(1年) ・2年生となり、南高生としての自覚が少しずつ出てきた。(2年) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○総貸出冊数が昨年度よりも増加するなど、一定の成果が出た。(教務) ●本校主体のサークルボランティア活動がなくなってしまったので、今後、育成していきたい(生徒) ○いじめを察知した段階で組織的(小委員会)に対応することができた。(生徒) ○本校いじめ防止基本方針を教職員、生徒、保護者へ周知し、いじめの防止等に取り組んだ。(生徒) | ・ボランティア活動について高校になると機会がない。是非取り組んでいただきたい。 |
| | | ⑭「生徒指導提要」及び生徒の「ウェルビーイング」の向上を踏まえながら、自己肯定感を高める指導をしていくとともに、自己管理能力の養成と教育相談の充実により、生徒の心身の健康保持に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○非行行為の皆無、いじめや盗難のない安心・安全な学校環境づくりのために、「我等の心得」に則り、南高生としての自覚と誇りを持ち、自主的に自覚した活動を奨励する。(生徒) ○様々な生徒に対し、養護教諭やSCと協力、連携しながら生徒指導を行う。(生徒) ○本校に入学して初めて挫折感を味わう生徒も多いことから、二者面談などを「週間」に関わらず実施し目を離さず支援を続け、生徒同士でも共有できる感情であることから「互助」の精神を育て、お互いの自己肯定感を高めることに資する指導を継続させる。(1年) ○面接週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、充実した学校生活を送ることができるよう指導助言を行う。(3年) ○教育相談委員会や養護教諭、スクールカウンセラーと協力しながら、疾病を持つ生徒や学校不適応・不登校の生徒に早期に対応し、心身の健康に関する問題の解決に努める。(3年) | <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数は現時点で22件。大きな事故にはなっていないが今後も0件を目指す。(生徒) ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として山形駅での啓発活動など取り組むことができた(生徒) ・不登校傾向、配慮が必要な生徒との生徒間のトラブルに対して、担任、学年、養護教諭、SC等連携しながら対応できた。(生徒) ・生徒同士の関係が部活動・クラスを通じて構築され、徐々に密なものとなっている。ここからさらに多様性に対する理解・寛容・包摂などについて考えさせていきたい。(1年) ・配慮が必要な生徒に関しては、年度当初や学年担任会、教科担当者会等で情報を共有した。(3年) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○保健室にこまめに足を運びながら生徒の情報共有を図った。(生徒) ●学校周辺での更なる交通マナーの向上(生徒) ●自転車利用時のヘルメット着用について本校生徒の着用率を上げていきたい。(生徒) ●生徒会活動などを利用し、学校周辺でのよりよい交通マナーの向上を図りたい。(生徒) ○要支援生徒に対して保健課、教育相談委員会、SCの手厚い協力を得て、オンライン授業なども認めていただき卒業を迎えられることとなった。各関係部署に感謝したい。(3年) | ・自転車の乗り方が気になる。車以上のスピードで走っている生徒がいる。前回から改善されていない。 ・ヘルメットの取り組みは敬服しているが、自転車保険加入率が山形県は最低である。加入が大切。対歩行者で死亡事故を起こした場合数千万円かかることがある。 |
| 5 | その他 | ⑮新型コロナウイルス感染症等、感染拡大の防止や熱中症防止対策への取組みや自転車等の事故の未然防止、事故発生時における的確な対応など、安全教育・安全管理の取組を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「さくら連絡網：健康チェック」の活用により、生徒の健康状態を把握して感染拡大を未然防止する。また、熱中症防止対策として講習会や熱中症計の配布をする。(保健) ○校内外の点検等により学校事故の根絶、安全点検の徹底を図る。(保健) ○定期的に安全点検を行い、事務室と連携し、危険箇所を修繕する。(総務) ○新型コロナウイルス感染症を含め、今後も多様な感染症が発生することが予見され、自分を守る、他者を守る未然防止に努め、事故発生時における的確な対応など、安全教育を推進する。(1年) ○貴重品を含めた持ち物の自己管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。(1年) ○感染症等の対策や事故の未然防止に努め、様々なリスクについて注意を促し、安全教育を推進する。(2年) ○持ち物の自己管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。(2年、3年) ○感染症防止に向けた取り組みを徹底して、健康管理、維持・増進に努めさせる。(3年) | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として『さくら連絡網：健康チェック』の活用や各掃除箇所への「消毒グッズ」を設置。(保健) ・熱中症対策としてAED講習会や各部へ熱中症計配布、また保健だよりなどにより大きな学校事故を防ぐことはできた。(保健) ・定期的に安全点検を行い、危険箇所の修繕については、速やかに技能員に確認してもらい対応している。(総務) ・残念ながら、本年は交通事故が多く、大きな怪我を伴う事故が起きなかったということが不幸中の幸いだった。ヘルメットの着用など、生徒の安全への自覚を、更に促していく必要を感じている。(1年) ・自転車による事故が4件多数発生した。(2年) ・マスクの着用を徹底させることができなかった。(3年) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策として、各掃除場所へ消毒液の設置により対策ができた。感染状況によりマスク着用の呼び掛けを実施した。(保健) ○熱中症対策として、運動部への熱中症予防講習の実施、各部活動へ熱中症計を配布した。(保健) ●さくら連絡網「健康チェック」機能の活用方法の検討、感染予防行動の実施と意識の向上(保健) ●設備が古くなって根本的な改修が必要な部分が増えている。(総務) ●自転車事故ゼロにするための生徒会、委員会の活動と、教員の注意喚起の継続(2年) ●「体調不良」の名のもとに安易に欠席する生徒が目立った。欠席に対する保護者の意識(感覚)も変化してきている。(3年) | ・さくら連絡網は引き続きよろしく願います。 |

達成度 A：達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D：達成できなかった（3割以下）

| 自 己 評 価 | | | | 学校関係者評価 | | 次年度の課題 | |
|---------|-----|-----------------------------------|--|---|-----|--|--|
| NO | 項目 | 重点目標 | 具体的方策・指標・基準等 | 達成状況 | 達成度 | | 成果○と課題● |
| 5 | その他 | ⑩校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ゴミを持ち込まない・持ち帰る指導を徹底し、安全で清潔な環境づくりを進める。(保健) ○毎日の清掃指導と点検、清掃強調週間による徹底を図る。(保健) ○事務室と連携を図りながら、校内諸施設・備品の整備・充実を図る。(総務) ○教室等を含めた校舎の清掃徹底、環境に美化に努め、学習に集中できる清潔な環境づくりをする姿勢を徹底させる。(1年) ○教室等の環境整備を徹底して、学習に集中できる清潔な環境づくりに努めさせる。(2年、3年) | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年での指導により、HR教室や廊下はきれいな状態を保つことができた。(保健) ・事務室と連携を図り校内の施設・備品の整備を適宜行った。(総務) ・学年全体で教室の使い方やごみの処理の仕方を指導し、徹底することができた。(1年) ・教室や廊下、ロッカーの上の整理整頓は良くなってきているが、まだ、自主的な取り組みになっていない。また部活動の活動場所に対する整理整頓ができていない(2年) ・個々の荷物が多く、自己管理ができない生徒がいたため、教室・廊下の環境整備が一部徹底できないところがあった。(3年) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○ごみの分別は、保健委員会の分別指導によりある程度の成果があった。(保健) ●各教室廊下の整理整頓がさらに徹底することが今後の課題。(保健) ●教室の整理整頓の習慣が徐々に身につけつつあるが、私物の管理などがまだまだで、忍耐強く指導を続けていきたい。(1年) ●学年団、生徒会、顧問による呼びかけと指導(2年) | |
| | | ⑪積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりに努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会及び中学校における学校紹介を行い、入学希望者に対して適切な広報活動を行う。(教務) ○南高ブログの管理を適切に行う。(総務) ○「さくら連絡網」を学習・生活・進路と横断した情報の発信・収集に活用し、保護者との連携を密にする。(1年) ○学年PTA・学級懇談会・三者面談・進路講演会などを開催する。(1年) ○学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にする。(2年) ○学年PTA・保護者対象の講演会・学級懇談会を開催し、連携を強化する。(3年) ○「さくら連絡網」や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にして共通理解を図る。(3年) ○理数科生徒の活動状況を「南高ブログ」によりタイムリーに伝えることで内外への情報発信に努める。(理数科) | <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の作成や学校説明会を行った。(教務) ・南高ブログの更新は昨年度より回数が減ったが、管理を適切に行った。(総務) ・「さくら連絡網」で学年通信を配信したり、進路の情報を発信した。また、保護者もさくらを通じて生徒の様子や面談の希望を伝えるなど、双方向でのやりとりに活用した。(1年) ・1月末時点で学年通信を15号発行し、学校での生徒の様子や各種情報を保護者と共有した。(2年) ・2月時点で学年通信を30回発行し、生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にするよう努めた。(3年) ・「学校案内」の中に理数科情報をコンパクトにまとめたり、学校説明会(中学生向け)では、理数科主任、理数科代表の生徒が本校を志望する中学生向けに直接PRできた。2年生理数探究発表を代表1グループが行った。(理数科) | B | <ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会には、多くの中学生とその保護者が参加し、南高らしさが伝わる学校説明会となった。(教務) ●次年度は入試制度が変わり、より丁寧な説明や本校のアピールの場となるよう様々な分掌と連携しながら学校説明会等を計画・実施していきたい。(教務) ○南高ブログを適宜更新しタイムリーに情報を発信することができた。個人情報保護等を考慮し記事の掲載期間を設定した。(総務) ○さくら連絡網を通じて学年通信の発行、呼びかけ、三者面談、二者面談などの実施により、多くの保護者と信頼関係を結ぶことができた。(1年) ○学年PTA総会後の学級懇談会は、担任と保護者の連携、情報共有のためには大変貴重な時間であった。(3年) ●端末の買い替えなどにより、「さくら連絡網」が繋がらない生徒・保護者が増えてきた。(3年) ○南高理数科の特徴や魅力を発信できた。また、生徒の研究発表はわかりやすく好評であった。(理数科) ●行事のたびにタイムリーな情報発信ができなかった。(理数科) | <ul style="list-style-type: none"> ・理数科の魅力をタイムリーに発信していく。(理数科) |